

OTSUMA Ranzan

Otsuma Ranzan Junior and Senior High School

「大妻らしく…嵐山生らしく…そして自分らしく」

らしくあれ



埼玉県比企郡嵐山町菅谷 558 0493-62-2281 大妻嵐山中学校高等学校

コロナ禍での体育祭 新たなカタチ! …やはり「一所懸命はカッコいい」…

昨年に続きコロナ禍での体育祭。しかし、今年は無観客ではなく、高3の保護者の皆さんに参観していただきました。全ての保護者の皆さまに公開をしたいところではありましたが、感染状況等を鑑みて今回の対応といたしました。直接参観することが出来なかった保護者の皆さまには、誠に申し訳ありませんでしたが、コロナ禍での体育祭としてご理解・ご協力をお願いします。

さて、今年の体育祭ですがやはり一所懸命はカッコいいですね。コロナ禍での学校生活に生徒の皆さんのエネルギーがたまりにたまっていたのか、体育祭では、そのエネルギーがこれまで以上に存分に発揮されていたのではないのでしょうか。

生徒の皆さんにとっては、やはり「待ちに待った?」体育祭だったのでしょ。応援練習など体育祭の本番に備えて短い期間ではあったものの、できる限り目一杯の練習に取り組んでいました。



振り返れば、新型コロナウイルスの感染拡大により、ここ何年かは様々な制約の中での学校生活であったと思います。「休校」「自粛」「延期」「ステイホーム」「ソーシャルディスタンス」などのワードに象徴されるように、皆さんにとっては、我慢を強いられた学校生活であったのかもしれませんが。

しかし、こうした状況に対して君たちにはここはひとつ視点を変えて、この状況をチャンスとしてとらえてほしいと思います。「コロナだから仕方がない」ではなく、「コロナだからこそできることがある」という、新しい発想のもとで自分たちの手で自分たちの体育祭を自分たちで形にしていく絶好の機会だったのではないのでしょうか。先輩たちが築き上げてきた「嵐山の伝統」に現役生の君たちが新しい形を築いていくことができれば、コロナ禍を自らの力でプラスに転じることができたと、胸を張って言えるのではないのでしょうか。

今回の体育祭を見て、君たちの「やる気」と「本気」をみせてもらいました。「竹取物語」で棒にしがみつ

て離れない君たちの姿を見てコロナ禍での体育祭に君たちの覚悟を見た気がします。勝って涙。負けて涙。本気で取り組んだからこそ、「勝つ喜び」「負ける口惜しさ」を感じるのです。本気で取り組んでいるからこそ、見ている人たちに感動を与えるのです。

体育祭を終えて、皆さんはどんな感想をお持ちですか。「頑張ってたよかった」「みんなとやってよかった」としみじみと振り返ることができましたか。今回の体育祭は、踊っている子も走っている子も応援している子も、そして係の仕事をしている人たちも含めて、嵐山生一人ひとりが全力で挑戦し、今回の体育祭の主人公として輝いていたと誰もが感じるようになった素晴らしい体育祭であったと思います。お疲れさまでした。



嵐山町とのコラボ企画！美術部 シャッターアート



4月30日(土)放課後に、本校の美術部員(高2生)が嵐山町の消防団車庫(消防団第一分団第三部)シャッターのアートペイントを行いました。

この企画は、今年3月に新築された嵐山町・消防団車庫のアルミシャッター(縦3m×横3.5m)に、同町のマスコットキャラクターである「むさし嵐丸」君を入れた絵図(デザイン担当:高2 栗原未来)を描く嵐山町と大妻嵐山のコラボ企画となります。

初めは慣れないキャンパス(シャッター)に少しとまどい気味だった部員たちも、消防団員の方々に見守られ、美術部顧問の笹岡先生からのアドバイスを受けて、段々と刷毛の動きもスムーズになっていきました。

なお、6月中旬には完成披露もおこなう予定です。その様子については、NHKにも取材に来ていただき、6月下旬頃に放送予定となっております。



【キャリアプログラム】 埼玉医大出張講義 ■ 臨床工学ってどんな学問?

5月11日(水)の15:30から、本校の第一理科室で埼玉医科大学保健医療学部の奥村先生による「いのちを守る学問…臨床工学」と題した出張講義が行われました。

前半は「臨床工学技士と人工心肺・ECMO」。後半は、「電気メス～電気はどうやって切るの?」という内容で多くの生徒が参加しました。なかなか、人工心肺装置を見るだけでも貴重なものですが、実際に動かすこともできて、参加生徒は誰もが満足している様子でした。



【キャリアプログラム】 目指そう！医療看護 ■ 医療看護ってどんな仕事

5月28日(土)に医療看護系志願者向けセミナーが実施されました。今回は、セミナー第一弾として「職業理解」と「学科試験対策アドバイス」の二本立ての内容です。医療看護系進学をサポートしている新宿セミナーのご協力をいただいて特別セミナーを実施しています。



本校では希望の多い看護師。心優しく、思いやりと優しさにあふれる嵐山生だからこそなのかもしれません。看護師の仕事は心身ともに苦しい人を支える、コロナ禍でその仕事は一層大変なものだけれどやりがいのある仕事です。看護職は「白衣の天使」と言われ、その存在が患者さんたちにとってまさに「天使」であったのでしょう。今では「白衣の戦士」と言われるほど、多忙なのかもしれませんが、どんな状況下でも患者さんにより添って体と心を支えていくことのできる看護師になってほしいですね。